

大都市圏における二次医療圏別にみた各種指標と在宅医療患者割合の関係

研究協力者 寺本 千恵 (東京都健康長寿医療センター研究所 非常勤研究員)
研究代表者 石崎 達郎 (東京都健康長寿医療センター研究所 研究部長)
研究分担者 光武 誠吾 (東京都健康長寿医療センター研究所 研究員)

研究要旨

在宅医療患者が地域で安心して生活を継続するためには在宅医療サービスが継続的に提供される必要がある。そのためには、訪問診療を担当する医師の存在はもちろんのこと、介護者の存在や急変時の後方支援病院の整備など様々な医療資源が必要である。しかしながら、二次医療圏別における医療資源についての実態はあまり明らかになっていない。そこで本研究は、東京都後期高齢者医療広域連合医科レセプトデータを分析し、東京都における二次医療圏別の在宅医療患者割合の実態を把握し、在宅医療整備に係る諸資源について検討した。75歳以上の在宅医療利用者数は約7万人(75歳以上人口の約5%)で、この割合は二次医療圏間で1.9%~7.5%と大きなばらつきが認められた。また、二次医療圏別の医療資源では、慢性期的な病床や高齢者施設が多い二次医療圏ほど在宅医療利用者割合は低く、人口密度が高く、医療資源が多いほど在宅医療利用者割合は高かった。東京都では在宅医療利用者の割合も医療資源の分布も二次医療圏間で差を認めた。在宅医療患者が地域で安心して生活を継続するため、隣接する二次医療圏で補完し合いながら、在宅医療サービスを継続的に提供する必要がある。

A. 研究目的

地域包括ケアシステム推進のために国は在宅医療の整備を進めている。在宅医療患者が地域で安心して生活を継続するためには在宅医療サービスが継続的に提供される必要がある。そのためには、訪問診療を担当する医師の存在はもちろんのこと、介護者の存在や急変時の後方支援病院の整備など様々な医療資源が必要である。医療提供体制は二次医療圏が基本単位とされているため、二次医療圏別に在宅医療を利用している患者の割合を示す必要がある。また、二次医療圏別における医療資源についての実態はあまり明らかになっていない。そこで本研究は、東京都における二次医療圏別の在宅医療患者割合の実態を把握し、在宅医療整備に係る資源について検討することを目的とする。

B. 研究方法

研究デザインはエコロジカル研究で、使用したデータは、東京都後期高齢者医療広域連

合から提供された匿名化済み医科レセプトデータ(平成26年7月診療分)と日本医師会総合政策研究機構 Japan Medical Association Research Institute (JMARI)が公表した「地域の医療提供体制の現状と将来-都道府県別・二次医療圏別データ集」、厚生労働省の第1回全国在宅医療会議の資料である「在宅医療にかかる地域別データ集」とした。調査項目は、社会属性指標、医療・介護サービス提供量等と在宅医療患者割合であった。分析方法は、まず、レセプトデータから在宅医療患者割合を二次医療圏別に算出し、在宅医療患者割合と各種指標との関連を、二次医療圏別に相関係数を算出し、散布図を作成した。なお、相関係数については13の二次医療圏および、島しょを除いた12の二次医療圏の両方で算出した。

C. 研究結果

1. 二次医療圏別の在宅医療患者割合

平成26年7月の在宅医療患者は68,665名であった。この在宅医療患者数の75歳

以上人口に占める割合は全体で 5.2%であった。二次医療圏間では西多摩 1.9%～区西南部 7.5%であった。

表 1. 二次医療圏別の在宅医療患者割合

結果 東京都の後期高齢者における二次医療圏域別の在宅医療患者数(2014年7月診療分)		
全体		68,665 5.2%
区中央部	千代田区,中央区,港区,文京区,台東区	5,020 6.7%
区南部	品川区,大田区	7,120 6.8%
区西南部	目黒区,世田谷区,渋谷区	9,768 7.5%
区西部	新宿区,中野区,杉並区	7,622 6.5%
区西北部	豊島区,北区,板橋区,練馬区	9,606 5.0%
区東北部	荒川区,足立区,葛飾区	6,759 4.9%
区東部	墨田区,江東区,江戸川区	5,737 4.6%
西多摩	青梅市,福生市,羽村市,あきる野市,瑞穂町,日の出町,檜原村,奥多摩町	823 1.9%
南多摩	八王子市,町田市,日野市,多摩市,稲城市	5,573 3.9%
北多摩西部	立川市,昭島市,国分寺市,国立市,東大和市,武蔵村山市	2,294 3.5%
北多摩南部	武蔵野市,三鷹市,府中市,調布市,小金井市,狛江市	5,105 5.1%
北多摩北部	小平市,東村山市,清瀬市,東久留米市,西東京市	3,121 3.8%
島しょ	大島町,利島村,新島村,神津島村,三宅島,三宅村,御蔵島村,八丈島,八丈町,青ヶ島村,小笠原村	117 2.6%

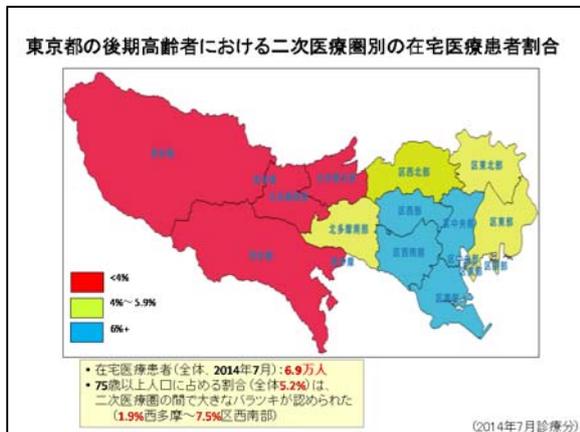


図 1. 二次医療圏別の在宅医療患者割合

2. 地理情報・人口動態と在宅医療患者割合の関係

人口または人口割合と在宅医療患者割合の関係性では地域差がなかった。地理的条件においては、地域の面積が広いほど、在宅医療利用者割合は低く、島しょを除いた場合でも同様であった。また、人口密度が高いほど、在宅医療利用者割合は高く、島しょを除いた場合でも同様であった。年齢構成に関しては、高齢化率が高いほど、在宅医療利用者割合は低く、島しょを除いた場合でも同様であった。人口の増減の予想においては、2010→40年総人口増減率が高いほど、在宅医療利用者割合は高かったが、島しょを除いた場合は地域差がなかった。また、2010→40年75歳以上人口増減率と在宅医療利用者割合は地域差がなかった。

3. 医療機関数と在宅医療患者割合の関係

医療機関数に関して、病院数や病院の割合における在宅医療利用者割合は地域差がなかった。一方、診療所施設数が多いほど、在宅医療利用者割合は高く、島しょを除いた場合でも同様であった。診療所の内訳として、無床診療所施設数が多いほど、在宅医療利用者割合は高く、島しょを除いた場合でも同様であった。有床診療所施設数が多いほど、在宅医療利用者割合は高く、島しょを除いた場合でも同様であったが、人口10万あたりの有床診療所施設数と在宅医療利用者割合との関係では相関がなかった。

4. 病床数と在宅医療患者割合の関係

各病床数に関して、病院総病床数や病院総病床の割合における在宅医療利用者割合は地域差がなかった。また、診療所の病床数や診療所病床の割合における在宅医療利用者割合にも地域差はなかった。病床の機能別に見ると、一般病床数が多いほど、在宅医療利用者割合は高く、島しょを除いた場合でも同様であったが、人口10万あたりの一般病床数と在宅医療利用者割合との関係では相関がなかった。一方、療養病床数や療養病床の割合における在宅医療利用者割合は地域差がなく、人口10万あたりの療養病床数と在宅医療利用者割合との関係では相関がなかったが、島しょを除いた場合では、人口10万あたりの療養病床数が多いほど、在宅医療利用者割合は低かった。精神病床数や精神病床の割合における在宅医療利用者割合は地域差がなく、人口10万あたりの精神病床数と在宅医療利用者割合との関係では相関がなかったが、島しょを除いた場合では、人口10万あたりの精神病床数が多いほど、在宅医療利用者割合は低かった。

5. 特殊な医療設備と在宅医療患者割合の関係

特殊な医療に関して、救急救命センター数が多いほど、救急救命センター割合が高いほど、在宅医療利用者割合は高く、島しょを除いた場合でも同様であったが、人口10万あたりの救急救命センター数と在宅医療利用者割合との関係では相関がなかった。がん診療拠点病院数が多いほど、がん診療拠点病院割合が高いほど、在宅医療利用者割合は高く、島しょを除いた場合でも同様であったが、人

口 10 万あたりのがん診療拠点病院数と在宅医療利用者割合との関係では相関がなかった。全身麻酔件数が多いほど、全身麻酔件数の割合が高いほど、在宅医療利用者割合は高く、島しょを除いた場合でも同様であったが、人口 10 万あたりの全身麻酔件数と在宅医療利用者割合との関係では相関がなかった。

6. 医師数と在宅医療患者割合の関係

医師数に関して、総医師数が多いほど、総医師の割合が高いほど、在宅医療利用者割合は高く、島しょを除いた場合でも同様であったが、人口 10 万あたりの医師数と在宅医療利用者割合との関係では相関がなかった。医師の内訳では、病院勤務医数が多いほど、病院勤務医の割合が高いほど、在宅医療利用者割合は高く、島しょを除いた場合でも同様であったが、人口 10 万あたりの病院勤務医数と在宅医療利用者割合との関係では相関がなかった。診療所医師数が多いほど、診療所医師の割合が高いほど、在宅医療利用者割合は高く、島しょを除いた場合でも同様であったが、人口 10 万あたりの診療所医師数と在宅医療利用者割合との関係では相関がなかった。

7. 看護師数・療法士数と在宅医療患者割合の関係

看護師数に関して、総看護師の割合が高いほど、在宅医療利用者割合は高く、島しょを除いた場合でも同様であった。看護師の内訳では、病院看護師の割合が高いほど、在宅医療利用者割合は高く、島しょを除いた場合でも同様であった。診療所看護師の割合が高いほど、在宅医療利用者割合は高かったが、島しょを除いた場合では相関がなかった。リハビリテーションを担う療法士に関しては、療法士の割合における在宅医療利用者割合は地域差がなかったが、島しょを除いた場合、人口 10 万あたりの療法士数が多いほど、在宅医療利用者割合は低くなった。

8. 在宅医療施設数と在宅医療患者割合の関係

在宅療養施設に関して、在宅療養支援診療所数が多いほど、在宅医療利用者割合は高く、島しょを除いた場合でも同様であった。一方、人口 10 万あたりの総看護師数と在宅医療利用者割合との関係では相関がなかった。在宅

療養支援病院数における在宅医療利用者割合は地域差がなかった。訪問看護ステーション数が多いほど、在宅医療利用者割合は高く、島しょを除いた場合でも同様であった。75 歳 1 万人当たりの訪問看護ステーション割合が高いほど、在宅医療を利用する患者割合は高かったが、島しょを除いた場合は地域差がなかった。

9. 高齢者ベッド数と在宅医療患者割合の関係

総高齢者ベッド数における在宅医療利用者割合は地域差がなかったが、75 歳以上 1,000 人当たりの高齢者ベッド割合が高いほど、在宅医療利用者割合は低く、島しょを除いた場合でも同様であった。介護保険施設ベッド数における在宅医療利用者割合は地域差がなかったが、島しょを除いた場合では、介護保険施設ベッド数が多いほど、在宅医療利用者割合は低かった。また、75 歳以上 1,000 人当たりの介護保険施設ベッド割合が高いほど、在宅医療を利用する患者割合は低く、島しょを除いた場合でも同様であった。総高齢者住宅数における在宅医療利用者割合は地域差がなかった。老人保健施設収容数における在宅医療利用者割合は地域差がなく、75 歳以上 1,000 人当たりの老人保健施設収容数と在宅医療利用者割合は地域差がなかったが、島しょを除いた場合では、75 歳以上 1,000 人当たりの老人保健施設収容数が多いほど、在宅医療利用者割合は低かった。特別養護老人ホーム数における在宅医療利用者割合は地域差がなかったが、島しょを除いた場合では、特別養護老人ホーム数が多いほど、在宅医療利用者割合は低かった。また、75 歳以上 1,000 人当たりの特別養護老人ホーム数が多いほど、在宅医療利用者割合は低く、島しょを除いた場合でも同様であった。介護療養病床数における在宅医療利用者割合は地域差がなく、75 歳以上 1,000 人当たりの介護療養病床数と在宅医療利用者割合は地域差がなかったが、島しょを除いた場合では、75 歳以上 1,000 人当たりの介護療養病床数が多いほど、在宅医療利用者割合は低かった。

10. 高齢者施設数と在宅医療患者割合の関係

有料老人ホーム数、グループホーム数、高

高齢者住宅数いずれにおいても在宅医療利用者割合は地域差がなかった。

11. 人口の推移・需要予測と在宅医療患者割合の関係

2025年総人口や2040年総人口における在宅医療利用者割合は地域差がなかった。2010年を100とした2025年総人口や2040年総人口は多いほど、在宅医療を利用する患者割合は高かったが、島しょを除いた場合相関は見られなかった。2025年の64歳以下人口が多いほど、在宅医療を利用する患者割合は高かったが、島しょを除いた場合相関は見られなかった。2010年を100とした2025年や2040年の64歳以下総人口が多いほど、在宅医療を利用する患者割合は高く、島しょを除いた場合でも同様であった。2025年や2040年の75歳以上総人口における在宅医療利用者割合は地域差がなかった。

12. 在宅医療施設の機能と在宅医療患者割合の関係

在宅療養支援病院数における在宅医療利用者割合は地域差がなかった。一方、在宅療養支援診療所数および一般診療所総数は多いほど、在宅医療を利用する患者割合は高く、ほとんどは島しょを除いた場合でも同様であった。看取りを実施する診療所数は多いほど、在宅医療を利用する患者割合は高く、島しょを除いた場合でも同様であった。

13. 在宅医療関係指標と在宅医療患者割合の関係

訪問看護ステーション数、看護職員数、24時間対応ステーションの看護職数は多いほど、在宅医療を利用する患者割合は高く、島しょを除いた場合でも同様であった。一方、老人ホームでの死亡の割合が多いほど、在宅医療を利用する患者割合は低く、島しょを除いた場合でも同様であった。

D. 考察

75歳以上の在宅医療利用者数は約7万人（75歳以上人口の約5%）で、この割合は二次医療圏間1.9%～7.5%と大きなばらつきが認められた。

在宅医療利用者割合が低い二次医療圏の

特徴は、地域の面積が広く、人口10万あたりの療養病床数・精神病床数・療法士数が多く、75歳以上1,000人あたりの高齢者ベッド数・介護保険施設ベッド数・老人保健施設収容数・特別養護老人ホーム数・介護療養病床数が多く、老人ホームでの死亡の割合が多かった。これらの二次医療圏では、慢性期的な病床や高齢者施設等が充実しており、医療が必要な患者であっても在宅で生活するより、慢性期的な病床もしくは高齢者施設への入所をする人が多いことが考えられる。これらの地域では、在宅医療に関連する医療資源を増加させ、在宅医療利用者の急変時の対応ができるように救急医療の充実も求められる。以上のことより、在宅医療を利用する高齢者が増加する可能性があり、患者の長期的な入院を防ぐとともに、軽度な高齢者の施設入所を減らすことができると考えられる。それにより、医療費や介護費の削減につながり得ることが考えられる。

一方、在宅医療利用者割合が高い二次医療圏の特徴は、人口密度が高く、診療所施設数（無床/有床）・在宅療養支援診療所数・看取りを実施する診療所数・一般病床数・救急救命センター数・がん診療拠点病院数・全身麻酔件数・訪問看護ステーション数が多く、総医師数（病院/診療所）・総看護師数（病院/診療所）・24時間対応ステーションの看護職数も多く、推計の2025年総人口・2040年総人口（特に64歳以下人口）が多い地域であった。これらの二次医療圏は、現段階で医療資源が充実しているものの、今後も人口が増加することが見込まれる地域であり、引き続き在宅医療を展開することができる医療資源を増加させることが必要となると考えられる。

E. 結論

東京都の75歳以上の後期高齢者における在宅医療患者を医科レセプト情報から把握したところ、75歳以上の約5%が在宅医療患者であった。二次医療圏別の医療資源では、慢性期的な病床や高齢者施設が多い二次医療圏ほど在宅医療利用者割合は低く、人口密度が高く、医療資源が多いほど在宅医療利用者割合は高かった。東京都では在宅医療利用者の割合も医療資源の分布も二次医療圏間

で差を認めた。在宅医療患者が地域で安心して生活を継続するため、隣接する二次医療圏で補完し合いながら、在宅医療サービスを継続的に提供する必要がある。

F. 健康危機情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表 なし

2. 学会発表

石崎達郎, 寺本千恵, 光武誠吾, 清水沙友里,

井藤英喜. 東京都の後期高齢者における在宅医療患者数の推計. 第 58 回日本老年医学会学術集会、金沢. 2016.6.8-6.10.

Ishizaki, T., Mitsutake, S., Teramoto, C. Home care in Japan in long-term care settings. The Gerontological Society of America's 68th Annual Scientific Meeting, New Orleans LA, U.S, 2016.11.16-20. 【シンポジウム】

H. 知的財産権の出願・取得状況（予定を含む）

該当なし

表 2. 地理情報・人口動態と在宅医療患者割合の関係

	二次医療圏 (n=13)		島しょ除外 (n=12)	
	相関係数	有意確率	相関係数	有意確率
人口	.523	0.07	.390	0.21
都内での割合 (人口)	.514	0.07	.373	0.23
面積	-0.741**	< 0.01	-0.688*	0.01
都内での割合 (面積)	-0.744**	< 0.01	-0.693*	0.01
人口密度	.825**	< 0.01	.792**	< 0.01
高齢化率	-0.671*	0.01	-0.727**	< 0.01
2010→40年総人口増減率	.614*	0.03	.524	0.08
2010→40年75歳以上人口増減率	.255	0.40	-0.122	0.70

**< 0.01 * < 0.05

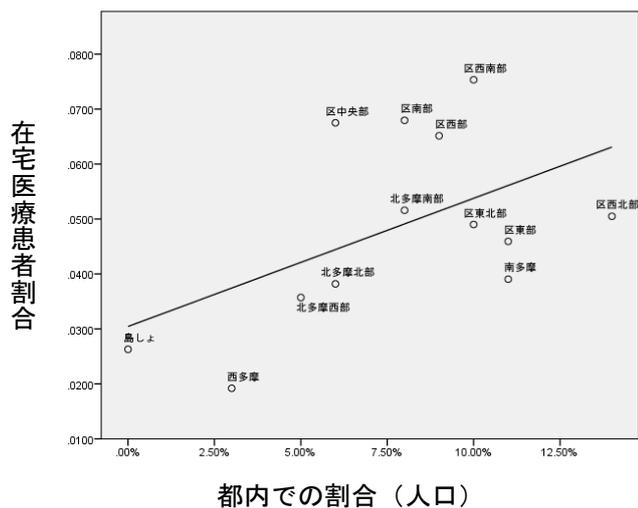


図 2. 人口割合と在宅医療患者割合

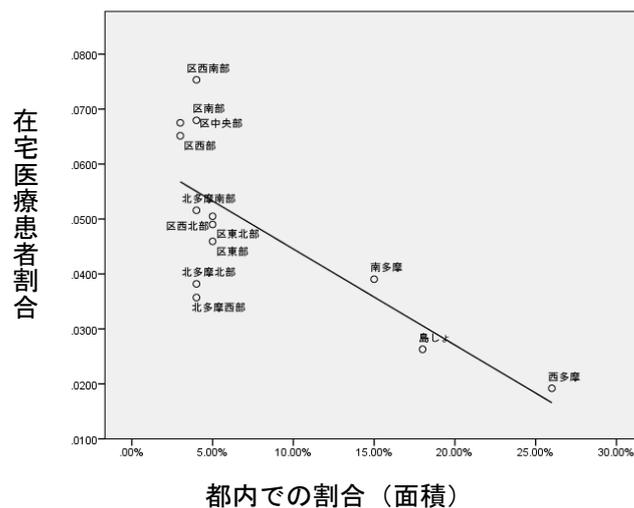


図 3. 面積割合と在宅医療患者割合

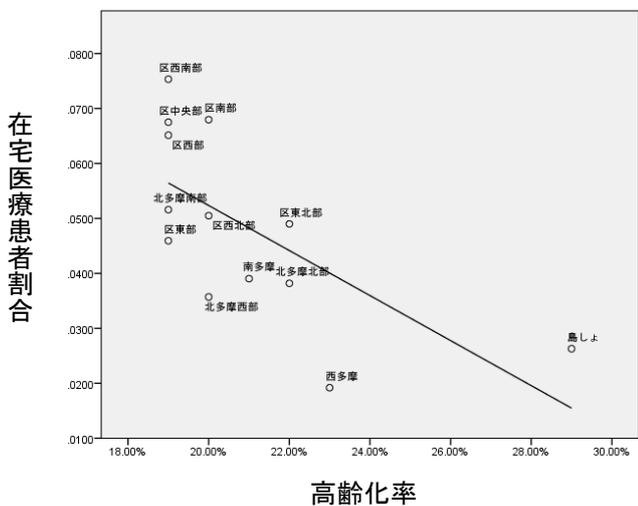


図 4. 高齢化率と在宅医療患者割合

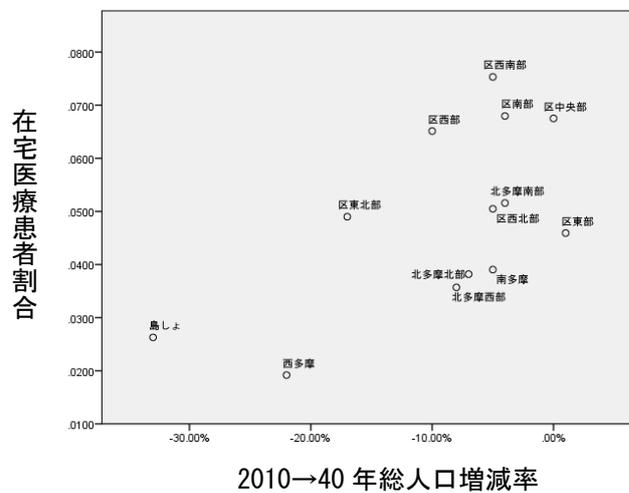


図 5. 総人口増減率と在宅医療患者割合

表 3. 医療機関数と在宅医療患者割合の関係

	二次医療圏 (n=13)		島しょ除外 (n=12)	
	相関係数	有意確率	相関係数	有意確率
病院数	.330	0.27	.138	0.67
都内での割合 (病院数)	.320	0.29	.123	0.70
人口 10 万当り (病院数)	-.270	0.37	-.436	0.16
診療所施設数	.839**	< 0.01	.807**	< 0.01
都内での割合 (診療所施設数)	.836**	< 0.01	.804**	< 0.01
人口 10 万当り (診療所施設数)	.579*	0.04	.582*	< 0.05
無床診療所施設数	.841**	< 0.01	.808**	< 0.01
都内での割合 (無床診療所施設数)	.838**	< 0.01	.805**	< 0.01
人口 10 万当り (無床診療所施設数)	.619*	0.02	.583*	0.05
有床診療所施設数	.724**	< 0.01	.667*	0.02
都内での割合 (有床診療所施設数)	.723**	< 0.01	.667*	0.02
人口 10 万当り (有床診療所施設数)	-.312	0.30	.515	0.09

**< 0.01 * < 0.05

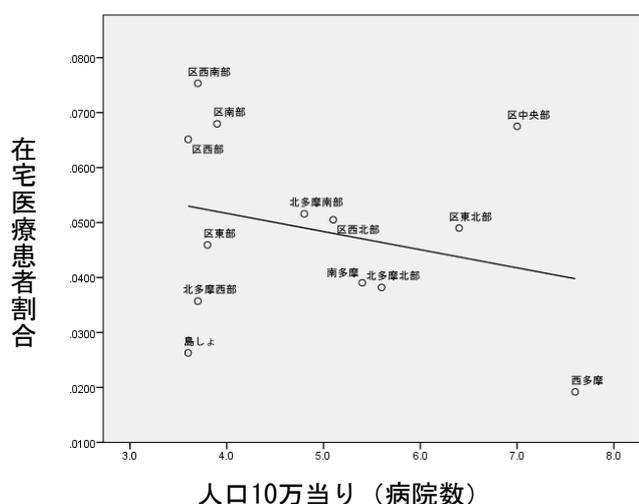


図 6. 人口 10 万当たり病院数と在宅医療患者割合

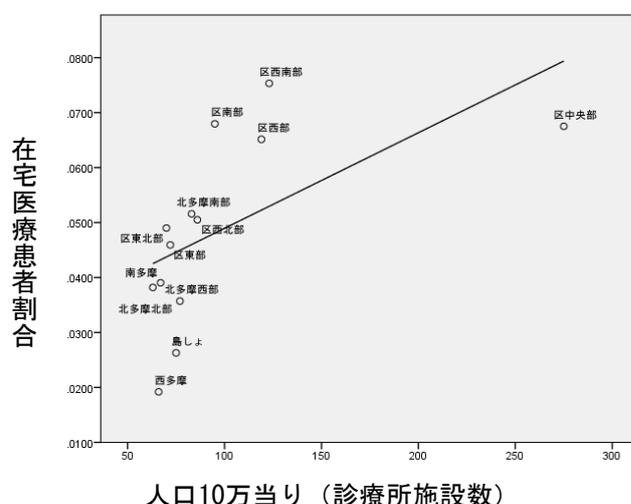


図 7. 人口 10 万当たり診療所数と在宅医療患者割合

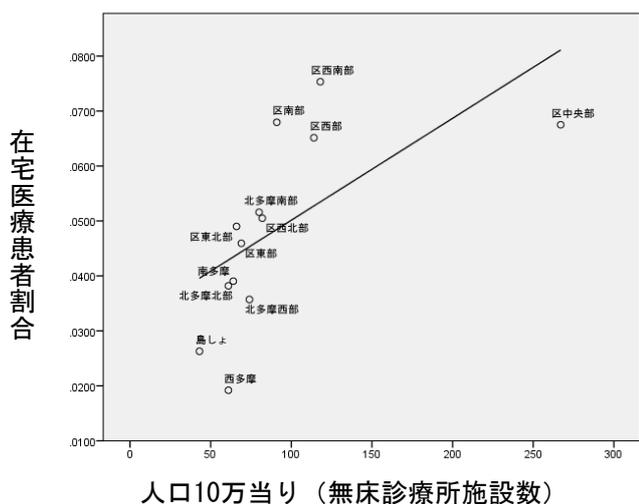


図 8. 人口 10 万当たり無床診療所数と在宅医療患者割合

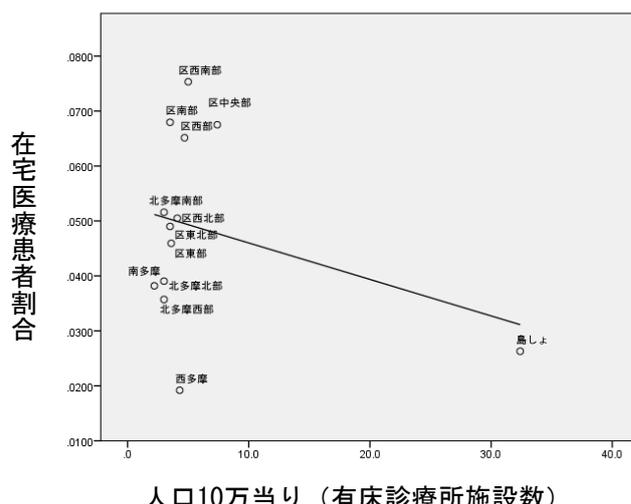


図 9. 人口 10 万当たり有床診療所数と在宅医療患者割合

表 4. 病床数と在宅医療患者割合の関係

	二次医療圏 (n=13)		島しょ除外 (n=12)	
	相関係数	有意確率	相関係数	有意確率
病院総病床数	.446	0.13	.283	0.37
都内での割合 (病院総病床数)	.442	0.13	.281	0.38
人口 10 万当り (病院総病床数)	.044	0.89	-.207	0.52
診療所病床数	.525	0.07	.421	0.17
都内での割合 (診療所病床数)	.517	0.07	.406	0.19
人口 10 万当り (診療所病床数)	-.361	0.23	.180	0.58
一般病床数	.783**	< 0.01	.737**	< 0.01
都内での割合 (一般病床数)	.807**	< 0.01	.768**	< 0.01
人口 10 万当り (一般病床数)	.541	0.06	.466	0.13
療養病床数	-.070	0.82	-.319	0.31
都内での割合 (療養病床数)	-.078	0.80	-.332	0.29
人口 10 万当り (療養病床数)	-.479	0.10	-.731**	< 0.01
精神病床数	-.222	0.47	-.364	0.24
都内での割合 (精神病床数)	-.216	0.48	-.355	0.26
人口 10 万当り (精神病床数)	-.491	0.09	-.664*	0.02
回復期病床数	.380	0.20	.196	0.54
都内での割合 (回復期病床数)	.403	0.17	.236	0.46
人口 10 万当り (回復期病床数)	-.042	0.89	-.514	0.09

**< 0.01 * < 0.05

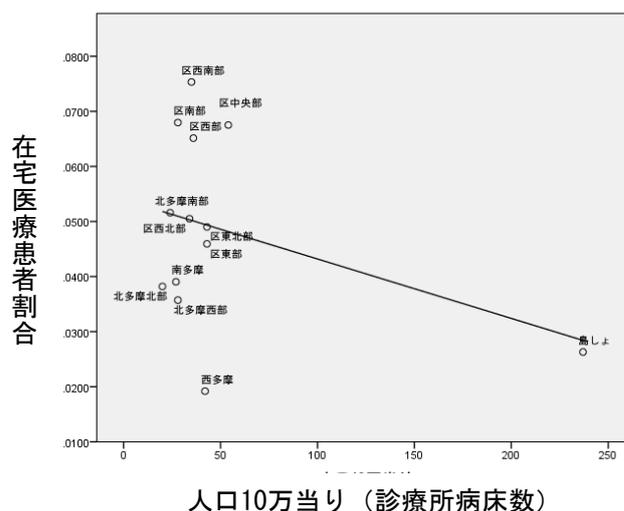
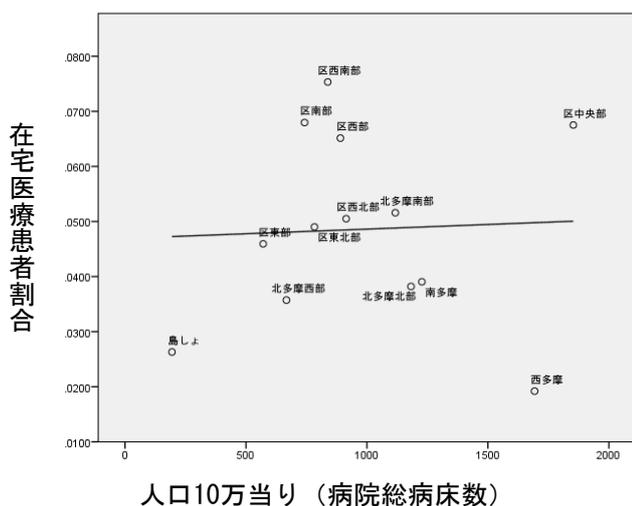


図 10. 人口 10 万当たり病院総病床数と在宅医療患者割合 図 11. 人口 10 万当たり診療所病床数と在宅医療患者割合

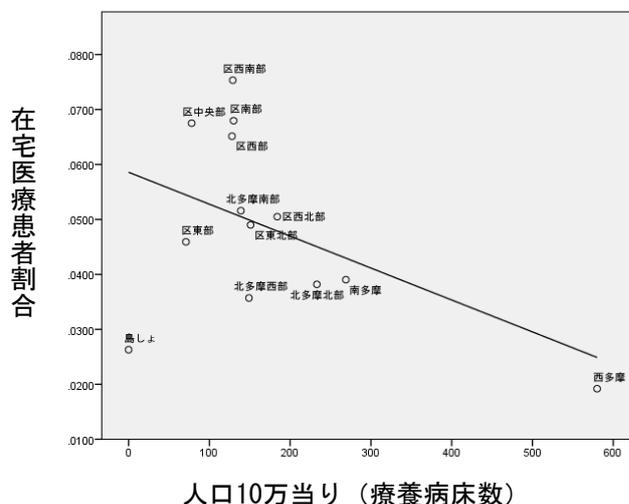
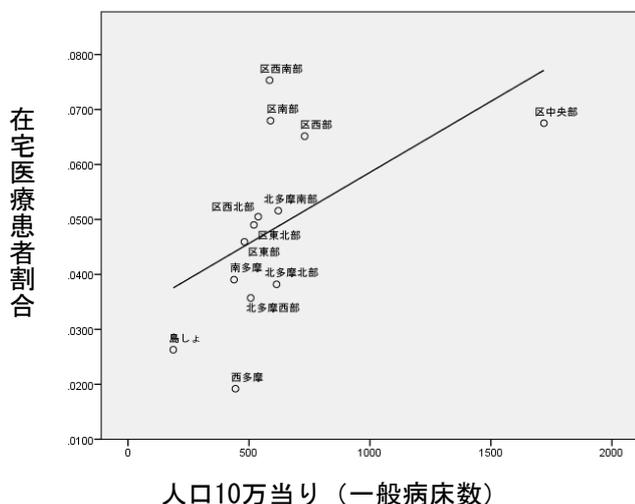


図 12. 人口 10 万当たり一般病床数と在宅医療患者割合 図 13. 人口 10 万当たり療養病床数と在宅医療患者割合

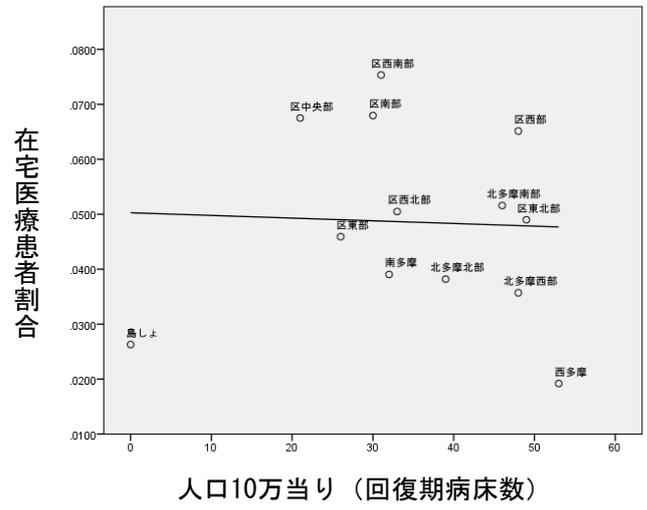
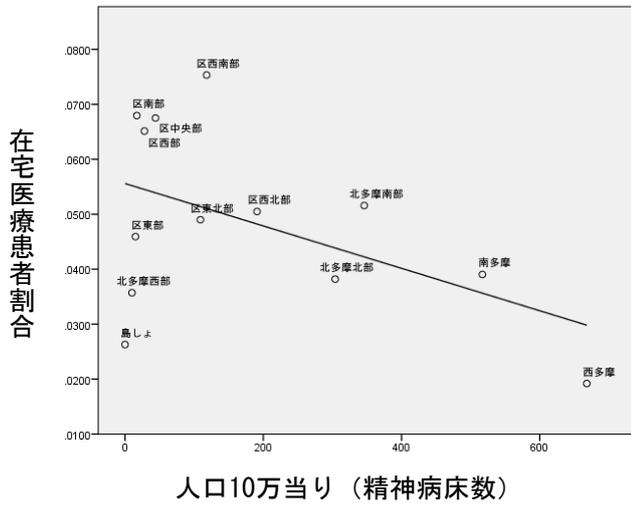


図 14. 人口 10 万当たり精神病床数と在宅医療患者割合

図 15. 人口 10 万当たり回復期病床数と在宅医療患者割合

表 5. 特殊な医療設備と在宅医療患者割合の関係

	二次医療圏 (n=13)		島しょ除外 (n=12)	
	相関係数	有意確率	相関係数	有意確率
救急救命センター	.711**	< 0.01	.658*	0.02
都内での割合 (救急救命センター)	.721**	< 0.01	.668*	0.02
人口 10 万当り (救急救命センター)	.441	0.13	.362	0.25
がん診療拠点病院	.628*	0.02	.589*	0.04
都内での割合 (がん診療拠点病院)	.628*	0.02	.589*	0.04
人口 10 万当り (がん診療拠点病院)	.443	0.13	.396	0.20
全身麻酔件数	.739**	< 0.01	.696*	0.01
都内での割合 (全身麻酔件数)	.733**	< 0.01	.687*	0.01
人口 10 万当り (全身麻酔件数)	.547	0.05	.493	0.10

**< 0.01 * < 0.05

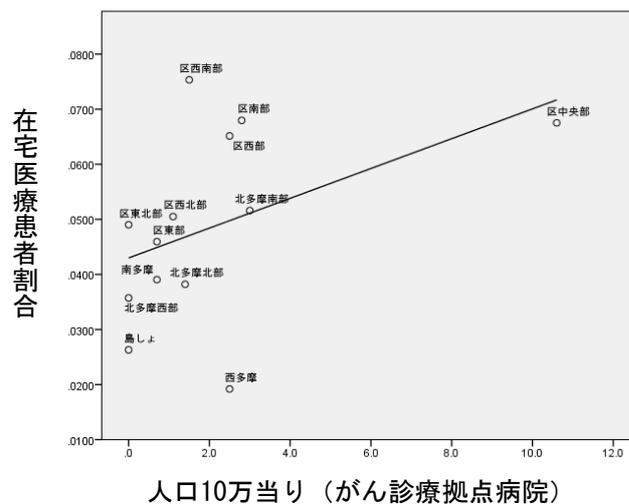
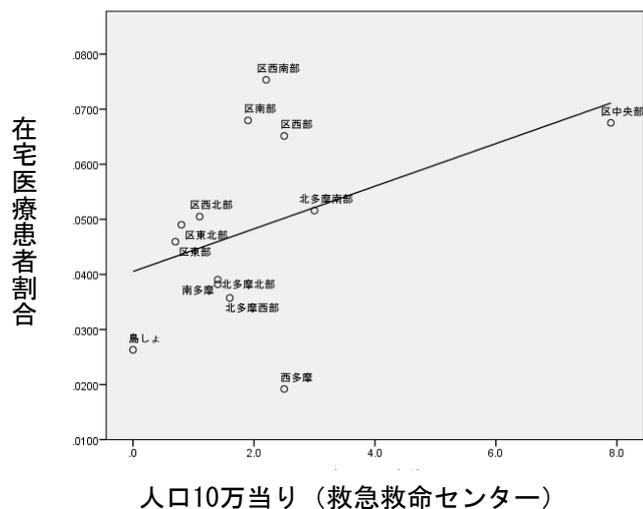


図 16. 人口 10 万当り救急救命センターと在宅医療患者割合 図 17. 人口 10 万当りがん診療拠点病院数と在宅医療患者割合

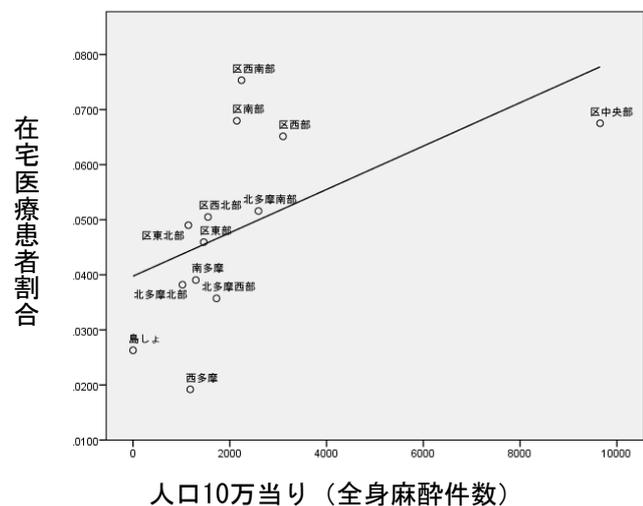


図 18. 人口 10 万当り全身麻酔件数と在宅医療患者割合

表 6. 医師数と在宅医療患者割合の関係

	二次医療圏 (n=13)		島しょ除外 (n=12)	
	相関係数	有意確率	相関係数	有意確率
総医師数	.771**	< 0.01	.729**	< 0.01
都内での割合 (総医師数)	.763**	< 0.01	.719**	< 0.01
人口 10 万当り (総医師数)	.549	0.05	.522	0.08
病院勤務医数	.738**	< 0.01	.695*	0.01
都内での割合 (病院勤務医数)	.727**	< 0.01	.683*	0.01
人口 10 万当り (病院勤務医数)	.542	0.06	.496	0.10
診療所医師数	.805**	< 0.01	.766**	< 0.01
都内での割合 (診療所医師数)	.800**	< 0.01	.760**	< 0.01
人口 10 万当り (診療所医師数)	.552	0.05	.562	0.06

**< 0.01 * < 0.05

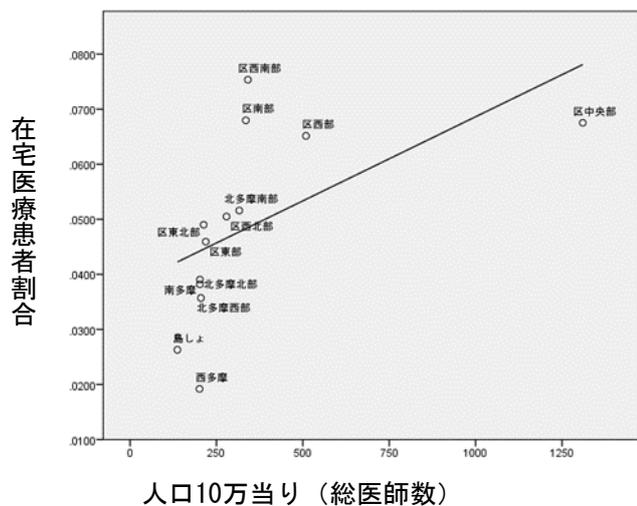


図 19. 人口 10 万当たり総医師数と在宅医療患者割合

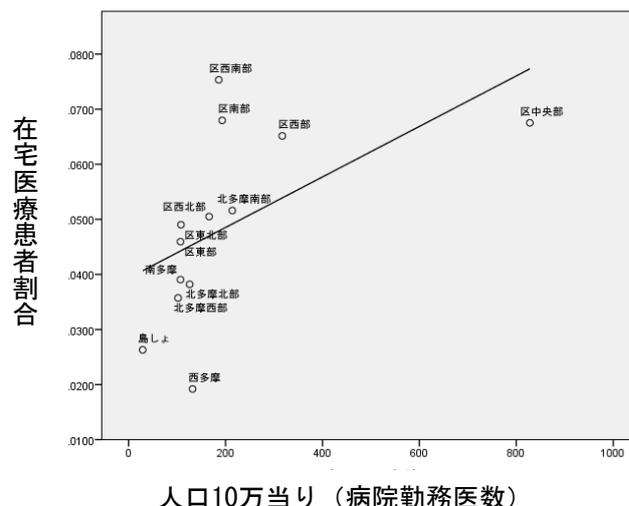


図 20. 人口 10 万当たり病院勤務医数と在宅医療患者割合

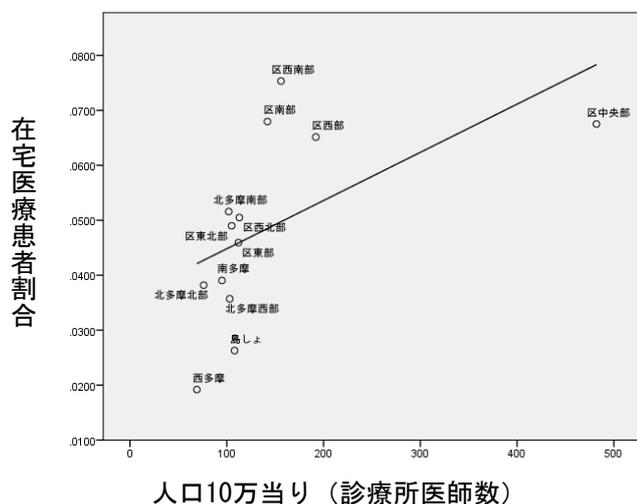


図 21. 人口 10 万当たり診療所医師数と在宅医療患者割合

表 7. 看護師数・療法士数と在宅医療患者割合の関係

	二次医療圏 (n=13)		島しょ除外 (n=12)	
	相関係数	有意確率	相関係数	有意確率
総看護師数	.707**	< 0.01	.639*	0.03
都内での割合 (総看護師数)	.738**	< 0.01	.679*	0.02
人口 10 万当り (総看護師数)	.411	0.16	.337	0.28
病院看護師数	.717**	< 0.01	.651*	0.02
都内での割合 (病院看護師数)	.711**	< 0.01	.644*	0.02
人口 10 万当り (病院看護師数)	.447	0.13	.339	0.28
診療所看護師数	.598*	0.03	.523	0.08
都内での割合 (診療所看護師数)	.603*	0.03	.525	0.08
人口 10 万当り (診療所看護師数)	.185	0.55	.316	0.32
総療法士数	.443	0.13	.266	0.40
都内での割合 (総療法士数)	.493	0.09	.336	0.29
人口 10 万当り (総療法士数)	.022	0.94	-.578*	0.05

**< 0.01 * < 0.05

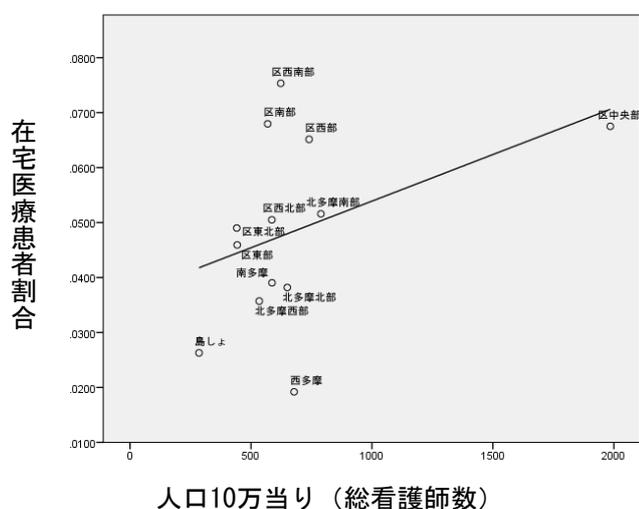


図 22. 人口 10 万当たり総看護師数と在宅医療患者割合

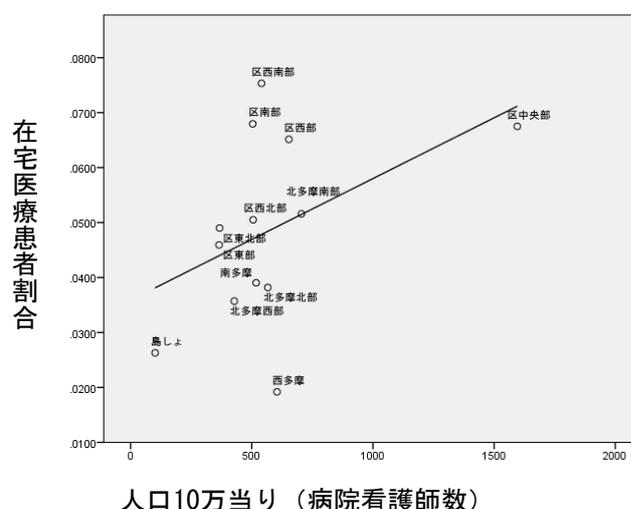


図 23. 人口 10 万当たり病院看護師数と在宅医療患者割合

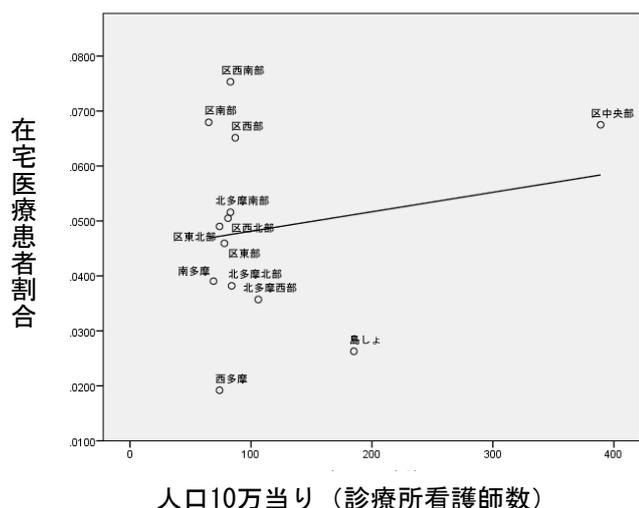


図 24. 人口 10 万当たり診療所看護師数と在宅医療患者割合

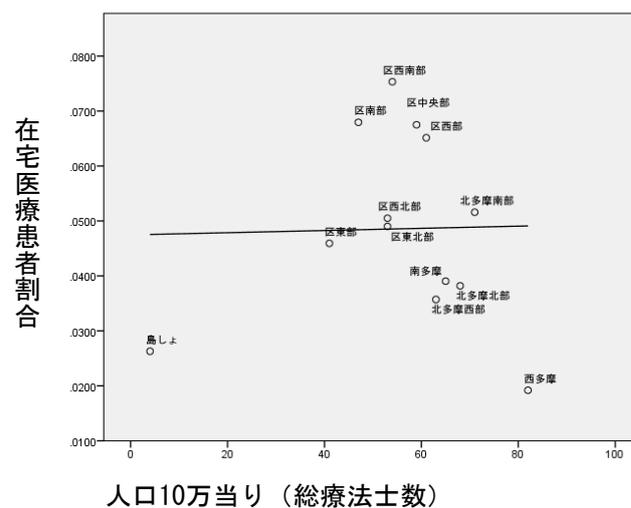
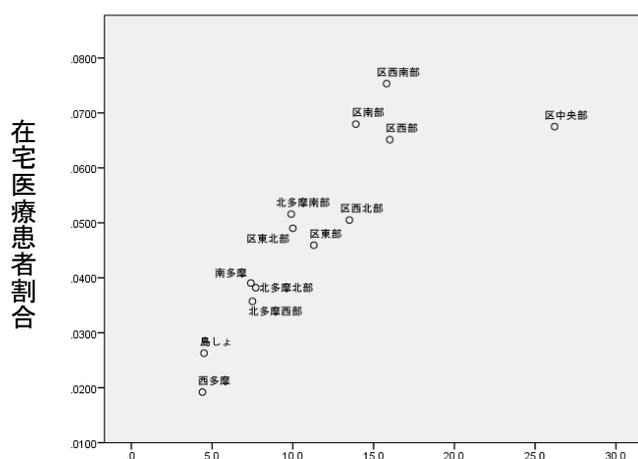


図 25. 人口 10 万当たり総療法士数と在宅医療患者割合

表 8. 在宅医療施設数と在宅医療患者割合の関係

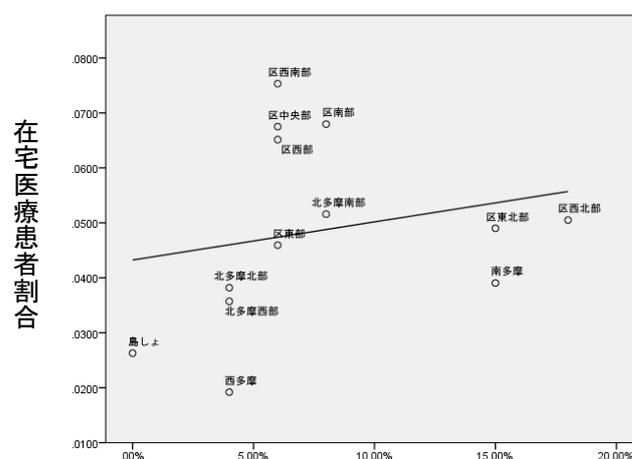
	二次医療圏 (n=13)		島しょ除外 (n=12)	
	相関係数	有意確率	相関係数	有意確率
在宅療養支援診療所	.813**	< 0.01	.774**	< 0.01
都内での割合 (在宅療養支援診療所)	.821**	< 0.01	.784**	< 0.01
75歳以上1万人当たり (在宅療養支援診療所)	.839**	< 0.01	.814**	< 0.01
在宅療養支援病院	.230	0.45	.067	0.84
都内での割合 (在宅療養支援病院)	.212	0.49	.045	0.89
75歳以上1万人当たり (在宅療養支援病院)	.081	0.79	-.271	0.39
訪問看護ステーション	.697**	< 0.01	.629*	0.03
都内での割合 (訪問看護ステーション)	.694**	< 0.01	.623*	0.03
75歳以上1万人当たり (訪問看護ステーション)	.582*	0.04	.551	0.06

**< 0.01 * < 0.05



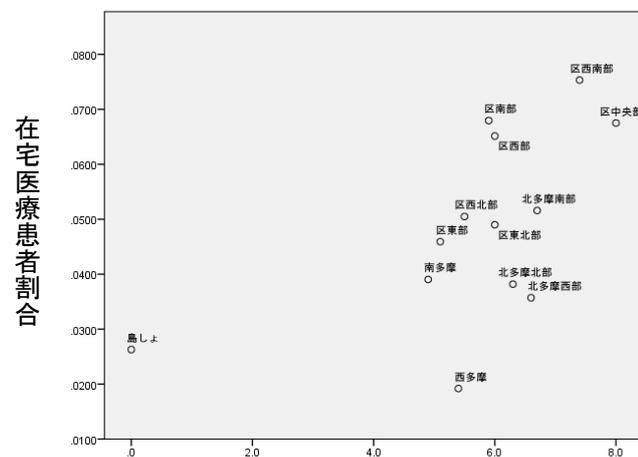
75歳以上1万人当たり (在宅療養支援診療所)

図 26. 在宅療養支援診療所割合と在宅医療患者割合



都内での割合 (在宅療養支援病院)

図 27. 在宅療養支援病院割合と在宅医療患者割合



75歳以上1万人当たり (訪問看護ステーション)

図 28. 訪問看護ステーション割合と在宅医療患者割合

表 9. 高齢者ベッド数と在宅医療患者割合の関係

	二次医療圏 (n=13)		島しょ除外 (n=12)	
	相関係数	有意確率	相関係数	有意確率
総高齢者ベッド数	-0.040	0.90	-0.396	0.20
都内での割合 (総高齢者ベッド数)	-0.004	0.99	-0.397	0.20
75歳以上 1,000人当り (総高齢者ベッド数)	-0.739**	< 0.01	-0.853**	< 0.01
介護保険施設ベッド数	-0.315	0.29	-0.677*	0.02
都内での割合 (介護保険施設ベッド数)	-0.357	0.23	-0.702*	0.01
75歳以上 1,000人当り (介護保険施設ベッド数)	-0.733**	< 0.01	-0.772**	< 0.01
総高齢者住宅数	.281	0.35	.072	0.82
都内での割合 (総高齢者住宅数)	.296	0.33	.089	0.78
75歳以上 1,000人当り (総高齢者住宅数)	-0.101	0.74	-0.441	0.15
老人保健施設 (老健) 収容数	-0.109	0.72	-0.415	0.18
都内での割合 (老人保健施設 (老健) 収容数)	-0.100	0.75	-0.403	0.19
75歳以上 1,000人当り (老人保健施設 (老健) 収容数)	-0.517	0.07	-0.954**	< 0.01
特別養護老人ホーム (特養) 収容数	-0.371	0.21	-0.705*	0.01
都内での割合 (特別養護老人ホーム (特養) 収容数)	-0.396	0.18	-0.721**	< 0.01
75歳以上 1,000人当り (特別養護老人ホーム (特養) 収容数)	-0.734**	< 0.01	-0.717**	< 0.01
介護療養病床数	-0.276	0.36	-0.467	0.13
都内での割合 (介護療養病床数)	-0.281	0.35	-0.472	0.12
75歳以上 1,000人当り (介護療養病床数)	-0.502	0.08	-0.663*	0.02

**< 0.01 * < 0.05

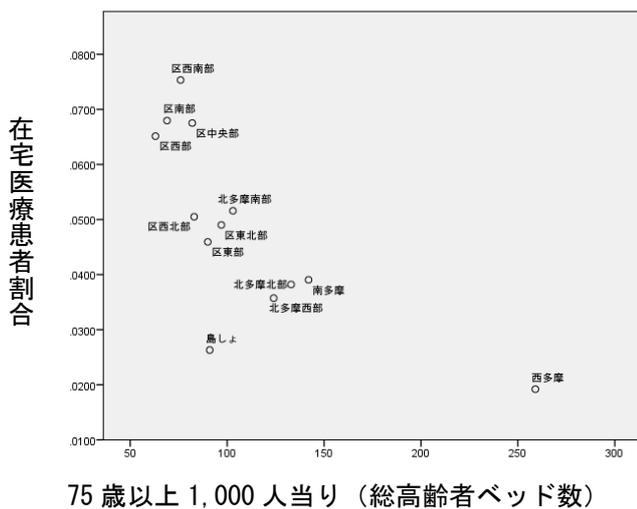


図 29. 総高齢者ベッド割合と在宅医療患者割合

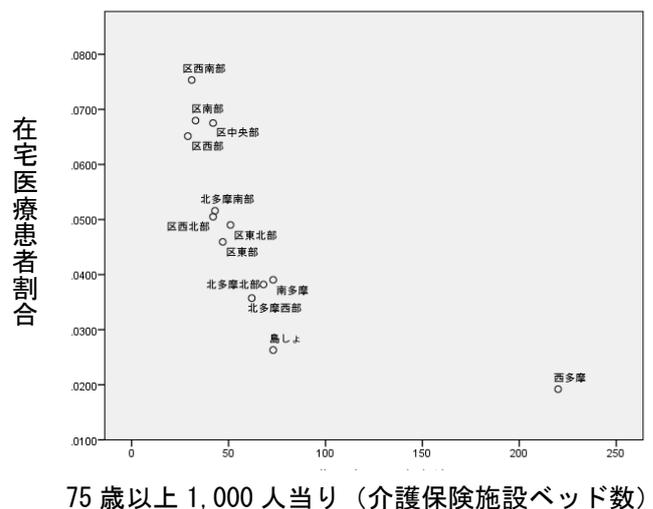


図 30. 介護保険施設ベッド割合と在宅医療患者割合

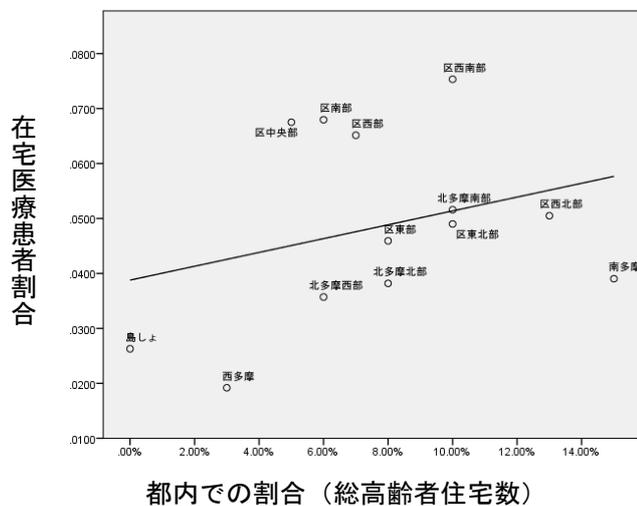


図 31. 総高齢者住宅割合と在宅医療患者割合

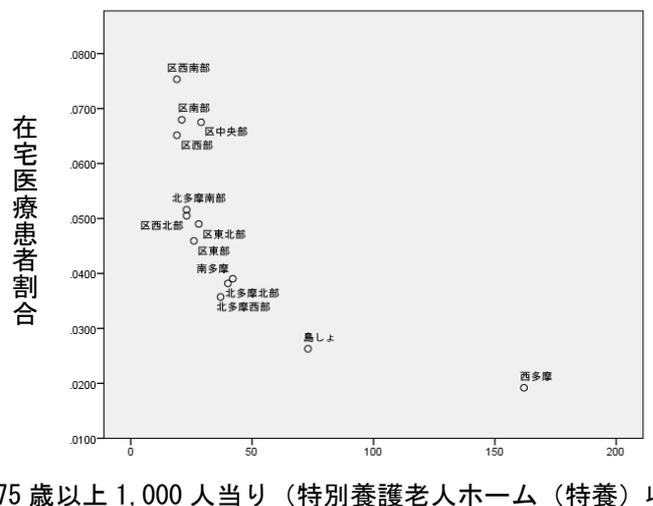
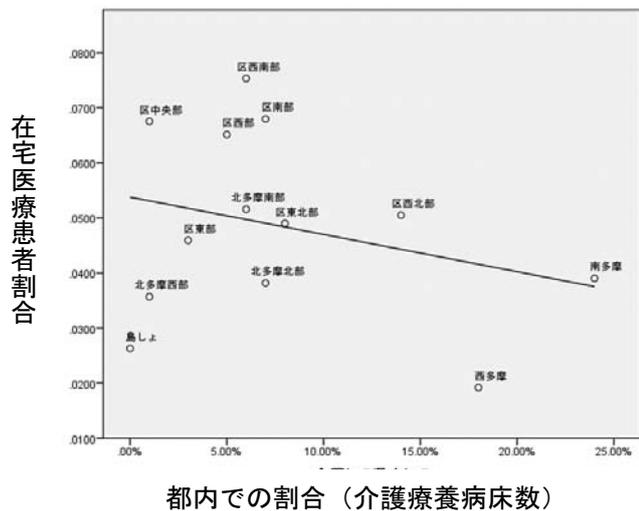


図 32. (特養) 収容数割合と在宅医療患者割合



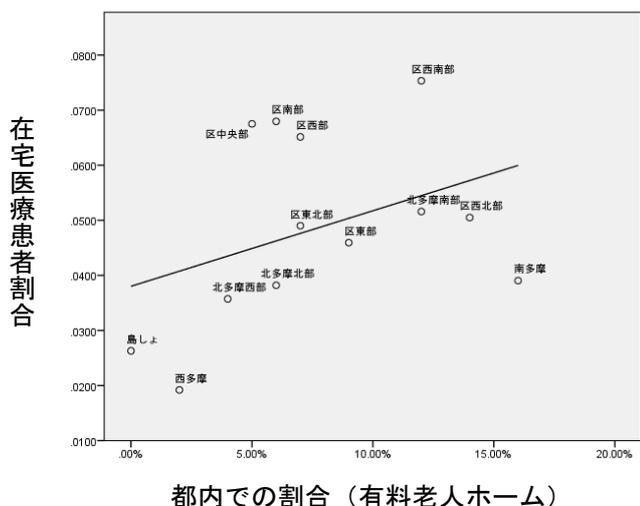
都内での割合 (介護療養病床数)

図 33. 介護療養病床割合と在宅医療患者割合

表 10. 高齢者施設数と在宅医療患者割合の関係

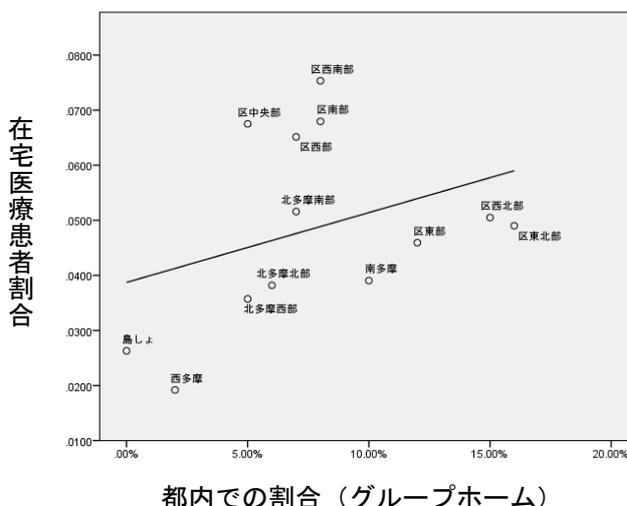
	二次医療圏 (n=13)		島しょ除外 (n=12)	
	相関係数	有意確率	相関係数	有意確率
有料老人ホーム	.371	0.21	.223	0.49
都内での割合 (有料老人ホーム)	.380	0.20	.234	0.46
75歳以上 1,000人当り (有料老人ホーム)	.286	0.34	.056	0.86
グループホーム	.328	0.27	.167	0.60
都内での割合 (グループホーム)	.344	0.25	.184	0.57
75歳以上 1,000人当り (グループホーム)	.185	0.54	-.074	0.82
高齢者住宅	.001	1.00	-.143	0.66
都内での割合 (高齢者住宅)	-.002	0.99	-.151	0.64
75歳以上 1,000人当り (高齢者住宅)	-.220	0.47	-.435	0.16

**< 0.01 * < 0.05



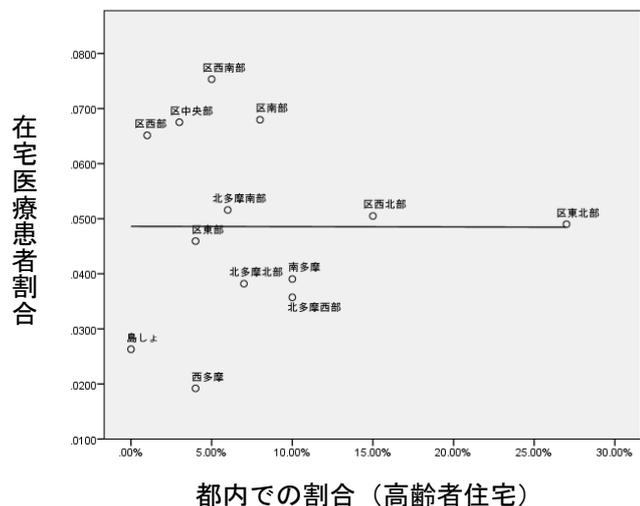
都内での割合 (有料老人ホーム)

図 34. 有料老人ホーム割合と在宅医療患者割合



都内での割合 (グループホーム)

図 35. グループホーム割合と在宅医療患者割合



都内での割合 (高齢者住宅)

図 36. 高齢者住宅割合と在宅医療患者割合

表 11. 人口の推移・需要予測と在宅医療患者割合の関係

	二次医療圏 (n=13)		島しょ除外 (n=12)	
	相関係数	有意確率	相関係数	有意確率
2025 総人口	.532	0.06	.404	0.19
2040 総人口	.538	0.06	.412	0.18
2010 年を 100 とした総人口(2025)	.622*	0.02	.540	0.07
2010 年を 100 とした総人口(2040)	.614*	0.03	.524	0.08
～64 歳人口(2025)	.560*	0.05	.441	0.15
～64 歳人口(2040)	.549	0.05	.428	0.17
2010 年を 100 とした総人口～64 歳人口(2025)	.759**	< 0.01	.747**	< 0.01
2010 年を 100 とした総人口～64 歳人口(2040)	.667*	0.01	.593*	0.04
75 歳以上人口(2025)	.420	0.15	.258	0.42
75 歳以上人口(2040)	.464	0.11	.317	0.32
2010 年を 100 とした 75 歳以上人口(2025)	-.052	0.87	-.536	0.07
2010 年を 100 とした 75 歳以上人口(2040)	.255	0.40	-.122	0.70
総医療需要増減率 2015→25	.539	0.06	.412	0.18
総医療需要増減率 2025→40	.659*	0.01	.616*	0.03
0-64 歳 医療需要増減率 2015→25	.788**	< 0.01	.823**	< 0.01
0-64 歳 医療需要増減率 2025→40	.398	0.18	.182	0.57
75 歳以上 医療需要増減率 2015→25	-.071	0.82	-.543	0.07
75 歳以上 医療需要増減率 2025→40	.663*	0.01	.582*	0.05
総介護需要増減率 2015→25	-.004	0.99	-.454	0.14
総介護需要増減率 2025→40	.702**	< 0.01	.647*	0.02

**< 0.01 * < 0.05

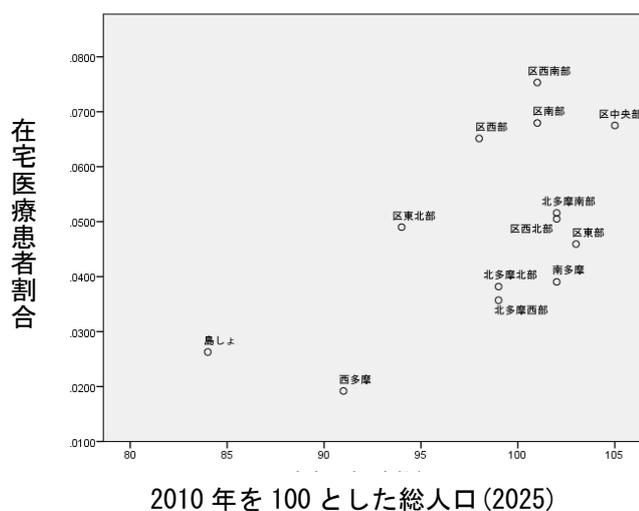


図 37. 総人口(2025)の増減と在宅医療患者割合

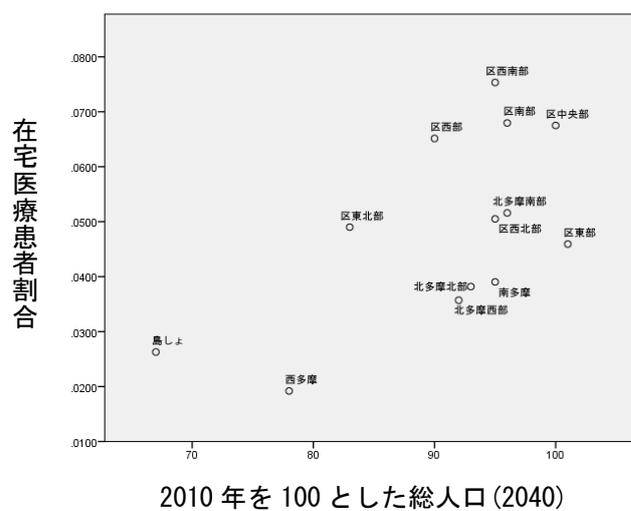
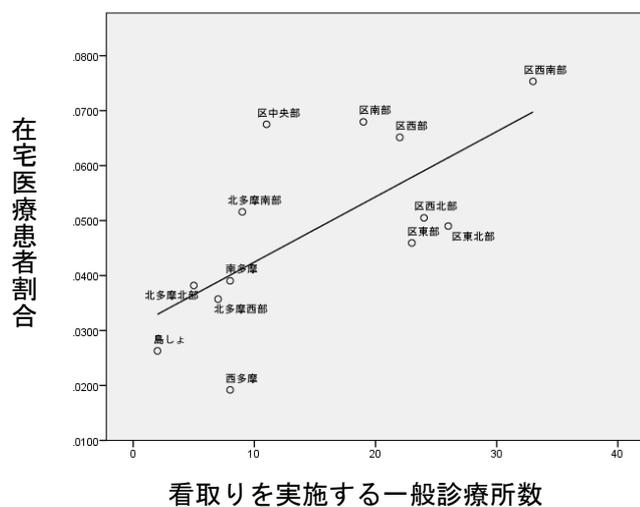


図 38. 総人口(2040)の増減と在宅医療患者割合

表 12. 在宅医療施設の機能と在宅医療患者割合の関係

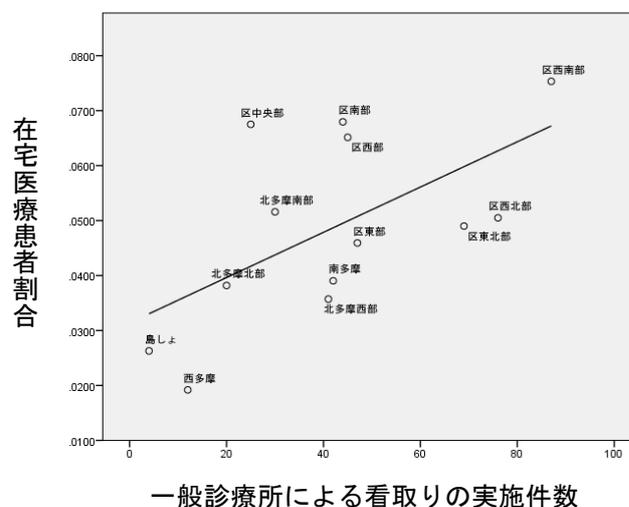
	二次医療圏 (n=13)		島しょ除外 (n=12)	
	相関係数	有意確率	相関係数	有意確率
在宅療養支援病院	.208	0.50	.050	0.88
うち機能強化型 (単独)	.136	0.66	-.019	0.95
うち機能強化型 (連携)	.271	0.37	.127	0.69
うち従来型	-.095	0.76	-.289	0.36
在宅療養支援診療所	.839**	< 0.01	.808**	< 0.01
うち機能強化型 (単独)	.616*	0.03	.586*	0.05
うち機能強化型 (連携)	.609*	0.03	.534	0.07
うち従来型	.827**	< 0.01	.795**	< 0.01
一般診療所総数	.911**	< 0.01	.894**	< 0.01
訪問診療を実施する一般診療所数	.824**	< 0.01	.791**	< 0.01
うち在支診	.836**	< 0.01	.805**	< 0.01
うち在支診以外	.791**	< 0.01	.751**	< 0.01
一般診療所による訪問診療の実施件数	.087	0.85	-.165	0.75
うち在支診によるもの	.102	0.83	-.104	0.84
うち在支診以外によるもの	.727**	< 0.01	.670*	0.02
看取りを実施する一般診療所数	.680*	0.01	.619*	0.03
うち在支診	.728**	< 0.01	.678*	0.02
うち在支診以外	.154	0.62	.024	0.94
一般診療所による看取りの実施件数	.593*	0.03	.505	0.09
うち在支診によるもの	.602*	0.03	.519	0.08
うち在支診以外によるもの	.163	0.59	.007	0.98

**< 0.01 * < 0.05



看取りを実施する一般診療所数

図 39. 看取りを実施する一般診療所数と在宅医療患者割合



一般診療所による看取りの実施件数

図 40. 看取りの実施件数と在宅医療患者割合

表 13. 在宅医療関係指標と在宅医療患者割合の関係

	二次医療圏 (n=13)		島しょ除外 (n=12)	
	相関係数	有意確率	相関係数	有意確率
訪問看護ステーション数	.667*	0.01	.598*	0.04
訪問看護ステーションの看護職員数 (常勤換算)	.666*	0.01	.598*	0.04
うち 24 時間対応のステーションの看護職員数 (常勤換算)	.684**	< 0.01	.617*	0.03
介護療養型医療施設病床数	-.249	0.41	-.422	0.17
介護老人保健施設定員	.260	0.39	.041	0.90
介護老人福祉施設定員	.132	0.67	-.330	0.29
小規模多機能型居宅介護事業所	.321	0.29	.187	0.56
複合型サービス事業所	-.008	0.98	-.159	0.62
自宅死の割合	-.339	0.26	.246	0.44
老人ホーム死の割合	-.663*	0.01	-.609*	0.04

**< 0.01 * < 0.05

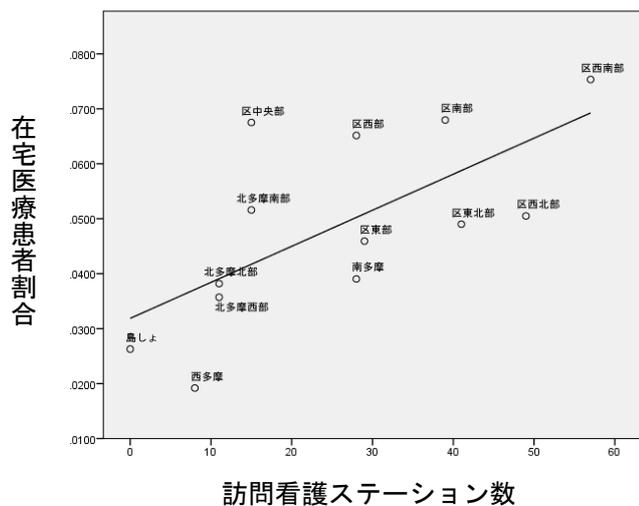


図 39. 訪問看護ステーション数と在宅医療患者割合